



遠藤 幸徳  
(民政クラブ)

遠藤議員の  
動画はこちら



質問項目

- ・市民生活行政について
- ・教育・スポーツ行政について
- ・消防行政について

# 生活応援システムの検証と精査は

## 効率的支援システムの構築を協議する

**議員**

生活応援センター事業を開始以来、当初の期待どおりの成果を果たしてきました。設立当初との生活環境から大きく変貌している現状を一度立ち止まり、事業を検証し、問題・課題を精査し、より良い生活応援システムを検討する時期と

**市長**

生活応援センターは、設立当初から地域に寄り添い、行政窓口や生涯学習の拠点、保健支援、介護予防支援、地域支援など地域住民の生活を支えるために大きな役割を果たしており、平成20年度からは、地

域の身近な課題の解決や特色を生かした魅力ある地域づくりを行う「地域会議」の事務局機能も担うなど、

地域に深く根付いた機能として住民に認知されているものと認識している。少子高齢化や人口減少が進行する中、また、東日本大震災による地域の変化やコロナ禍による環境変化、職員数・業務量の変動などにより、生活応援センターが直面している状況に大きな変化が生じている。こうした現状を受け、生活応援システムを一度立ち止まって検証を行い、問題や課題を精査す

ることは非常に重要である

と認識している。今後、生活応援センターが地域により適応できるよう、これまでの事業の検証や問題、課題を精査し、センターの配置や事業内容の見直しも含め、厳しさを増す行財政の状況を踏まえながら、地域ごとの特性に応じた柔軟で効率的な支援システムを構築するため、庁内での議論も進めるとともに地域住民や関係者とも協議を重ねていく。

**議員**

各地区生活応援センターの保健師等の専門職の配置状況と地域格差

について。

**保健福祉部長**

保健師を配置していない地区については、隣接する地区の保健師と市保健福祉センターの保健師により対応しているが、常勤する保健師の配置がない地区があるという点においては格差があると認めざるを得ない。生活応援

センターの保健師だけではなく、様々な関係団体や多くの職種の皆様により、各

地域において複合的に対応している状況にあり、常勤の保健師を配置していない地区においても、「機能」という面から格差を生じさせないよう努めていく。



地域活動のよりどころ  
「生活応援センター」